第 8 回 ITS シンポジウム 2009
～社会に溶け込む ITS へ～

第 8 回 ITS シンポジウム 2009 はお陰様をもちまして成功裡に終了いたしました。ご参加誠にありがとうございました。

●開会式
実行委員長の浅田尚紀広島市立大学長と、ITS Japan 会長渡邉浩之より開会の挨拶が述べられました。

開会式

浅田学長

渡邉会長

●企画セッション
1-1「広島地域に溶け込む ITS」
今回のシンポジウムのテーマである「社会に溶け込む ITS 」の一端として、開催地である広島における事例が広島市行政、大学、企業から紹介されました。具体的には、 ICT 利活用による環境との共生、安全・安心なまちづくり等の施策、実交通機関での実証実験などの取り組みを通して、日常生活の様々な面で真に役立つ ITS 普及に向けた課題と展望が議論されました。

モデレータ:
広島大学大学院 国際協力研究科教授 藤原章正
パネリスト:
「広島市の新たな取組について」
豊田麻子 広島市副市長 兼 CIO

「広帯域無線ネットワークの利活用実証実験」
前田香織　広島市立大学大学院　情報科学研究科　教授

「LRT 化に向けた情報技術の活用」
藤元秀樹　広島電鉄株式会社　取締役　電車カンパニーバイスプレジデント

「地域に溶け込む ITS　～広島地域の産官学連携による ITS 公道実証実験～」
松岡孟　マツダ株式会社　技術研究所長

1-2「ITS による新たな市場創出」
情報通信技術(ICT)の革新は、今日的な ITS の目的である、世界に先駆けての低炭素社会の構築、交通事故死ゼロへの挑戦、安心な高齢化・高福祉社会の実現、豊かで暮らしやすい都市創造とともに、これらを通して新産業の創造と ITS 市場の拡大が期待されます。このセッションでは、観光、医療、環境、エネルギー、情報サービス等についての技術開発の方向性と新たな国内外の ITS の市場創出の可能性、課題をフロアーからの参加も得て議論されました。

モデレータ:
東京大学　生産技術研究所客員教授　田中敏久

パネリスト:
「実世界 ICT の展開と ITS」
塚本昌彦　神戸大学大学院工学研究科電気電子工学専攻　教授

「ITS が変えるインフラ・まちづくり」
清水哲夫　東京大学大学院工学研究科　社会基盤学専攻　准教授

「自動車の IT 化戦略　～日本の自動車産業の将来に向けて～」
時津直樹　インターネット ITS 協議会　事務局長

2-1「交通心理学・人間工学から見た ITS」
安全は単に機械やデバイスの機構・機能だけで実現が期待されるものではなく、人間の補償行動特性までをも考慮した上でハード・ソフトが有機的に絡み合う包括的な安全システムを議論する時代を迎えつつあり、利用者である人間にどう行動してもらえるかを考えながらシステム設計すべきであるといえます。本セッションでは、こうした視点から ITS 技術の課題や今後の展望が議論されました。

モデレータ:
マツダ株式会社　技術研究所　主幹研究員　末冨隆雅

パネリスト:
「一機械工学者から見た運転支援システムの課題」
吉本堅一　埼玉工業大学　先端科学研究所　教授

「高齢ドライバーのリスクテイキング行動とリスク回避行動」
蓮花一己　帝塚山大学　心理福祉学部心理学科　教授

「安全技術では事故を減らせない！？　～リスク補償行動とホメオスタシス理論～」
芳賀繁　立教大学　現代心理学部心理学科　教授

2-2「ITS のご近所で地球環境を考える」
地球環境問題への意識の高まりから、道路交通による CO2 排出量削減の必要性が叫ばれる昨今、ITS の分野でも環境改善に向けた取り組みが進められています。本セッションでは、ITS と関連する分野での地球環境問題への取り組みについて、登壇者から話題提供をいただき、ITS を含めた総合的な取り組みにつながる可能性が議論されました。

モデレータ:
株式会社アイ・トランスポート・ラボ 代表取締役 堀口良太

パネリスト:
「自動車交通からの CO2 排出量削減に向けた話題提供」
池田朋広 株式会社三菱総合研究所
社会システム研究本部 ITS 研究グループ 主席研究員

「家庭におけるエネルギーマネジメントの観点から」
山崎達也 独立行政法人情報通信研究機構 上席研究員

「九州電力の電気自動車普及へ向けた取り組みについて」
村上慎治 九州電力株式会社 総合研究所事業推進グループ 副長

●対話セッション（ポスターによる対話型セッション）
98 編の論文が発表されました。前半ではポスターを掲示して発表者と聴講者が 1 対 1 で情報交換するポスターセッションを行い、後半には昨年ご好評いただいた公開質疑の時間を設けました。発表者と聴講者全員が一堂に会し、モデレータの司会により活発なディスカッションが展開されました。

モデレータは以下の皆様にご担当いただきました。

DLS/1-A
大口敬 首都大学東京大学院 都市環境科学研究科 教授
小林雅文 住友電気工業株式会社 ITS 開発部 主席

DLS/1-B
堀口良太 株式会社アイ・トランスポート・ラボ 代表取締役
上條俊介 東京大学 生産技術研究所戦略情報融合国際研究センター 准教授

DLS/1-C
熊澤宏之 三菱電機株式会社 自動車機器開発センター開発第一部 主管技師長
中野倫明 名城大学大学院 理工学研究科情報工学専攻 教授

DLS/1-D
目黒浩一郎 株式会社三菱総合研究所 社会システム研究本部 ITS 研究グループ 主任研究員
小野晋太郎 東京大学 生産技術研究所先進モビリティ研究センター 特任助教

DLS/2-A
大口敬 首都大学東京大学院 都市環境科学研究科 教授
清水哲夫 東京大学大学院 工学研究科社会基盤学専攻 准教授

DLS/2-B
松岡孟　マツダ株式会社　技術研究所長
平岡敏洋　京都大学大学院　情報学研究科システム科学専攻　助教

DLS/2-C
羽渕裕真　茨城大学　工学部情報工学科　准教授
中野公彦　東京大学　生産技術研究所先進モビリティ研究センター　准教授

DLS/2-D
加世山秀樹　本田技研工業株式会社　渉外部　技術主任
浜岡秀勝　秋田大学　土木環境工学科　准教授

ポスターセッション会場風景

公開討議

●ベストポスター賞
モデレータによる選考の結果、以下の 8 名の方々がベストポスター賞に選ばれ、閉会式で表彰されました。

◇学術部門（5編）
1-A-01
右折衝突防止支援情報の事故低減効果の分析手法
鈴木桂輔（香川大学）、山田喜一（大同大学）

1-B-06
RF-IDを用いた車両誘導システムーインタラクティブ誘導の試み
川村武、山本悦崇、菅原宣義、柏達也、田口健治（北見工大）

2-B-03
自動車の自動運転における交差点走行制御に関する研究
大前学、小木津武樹、本間宣嗣、宇佐美佳祐（慶應大学）

2-C-03
室内実験による所要時間分布情報提供時の経路選択行動に関する研究
田中光久（丸紅）、宇野伸宏、塩見康博、安隆浩（京都大学）

2-D-10
ドライバ個人差を有するミクロ交通シミュレーションの旅行時間推定を用いた再現性向上
田中悠樹、鈴木高宏（東京大学）

◇技術部門（3編）
2-A-06
無信号交差点における出会い頭事故対策の一手法
路車間通信を活用した安全運転支援システムの提案
塚田悟之、福島正夫（日産自動車）

1-C-06
モーションとパターン認識を組み合せた車載カメラ歩行者検出
上條俊介、藤村嘉一（東京大学）

1-D-02
プローブ情報を活用した安全運転支援技術の開発
-プローブカーの急減速発生状況と事故発生状況の比較-
山崎慎也、舟久保晃、谷澤悠輔（マツダ）

審査風景

選考会議

表彰式

●閉会式

プログラム委員長の藤原章正教授より会議の講評が行われ、次回プログラム委員長の谷口栄一教授から来年の開催日時がアナウンスされました。

藤原教授

谷口教授

●次回のご案内

開催日：2010 年 12 月 10 日（金）－11 日（土）
会場：京都大学百周年時計台記念館

皆様のご参加をお待ち申し上げます。

以上